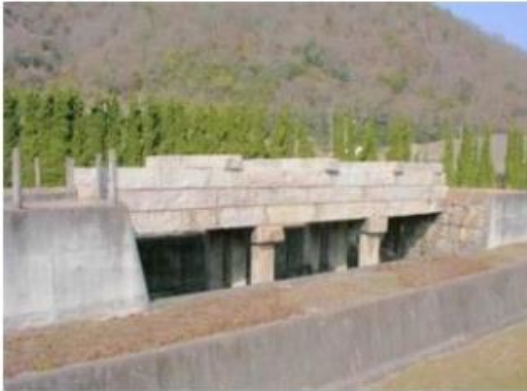


## 田原用水水路橋(石の懸樋)



指定区分	県指定重要文化財(建造物)
読みかた	たわらようすいすいろきょう(いしのかげひ)
所在地	赤磐市徳富
指定年月日	平成5年4月23日
解説	元禄年間(1688～1704)に造られた、石製水路橋。長さ12.97m、幅3.19m。構造は、花崗岩製の四角柱を縦横に組み上げた高架式。岡山藩郡代津田永忠が、田原用水の末端800m上流のところから新しく西へ水路を開削して、小野田川の上に石造の水路橋を造ることを計画し、大阪の石工・河内屋治兵衛らに造らせる。構造・技法が非常に高度である。昭和57年(1982)に小野田川改修工事によって解体、移転され、現在は記念公園に復元されている。
アクセス方法	JR熊山駅から徒歩30分
公開状況	外観のみ
設備	
備考	

## きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定重要文化財(建造物)
ぶんかざいめい (文化財名)	田原用水水路橋(石の懸樋)
よみかた	たわらようすいすいろきょう(いしのかげひ)
しょざいち (所在地)	赤磐市徳富
していつひ (指定した日)	平成5年4月23日
せつめい	小野田川(おのだがわ)を越(こ)えて田原用水(たわらようすい)を通(とお)すためにつくられました。川(かわ)と用水路(ようすいろ)が立体交差(りったいこうさ)する水路橋(すいろきょう)です。水がもれないように石材と石材のすき間をきちんとつめる工夫がされています。